

科目名 Course Name	相談援助実習 I Social Work Practicum I						
年次	1 年	期別	集中(後 期)	単位数	1	授業形態	実習
担当者氏名	佐藤佳子 吉田志保 大熊信成						
連絡先(質問 等)	福祉棟 3F 研究室か、メールで対応。						
必修/選択	選択(社会福祉士国家試験受験資格取得必修)						
関連 DP	DP2、DP3、DP4						
授業の概要と 到達目標	<p>選定した相談援助場面において、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等を体得する。特に基本的なコミュニケーション、円滑な人間関係の形成、利用者理解の方法を学ぶ。また職場の構造と機能を全体的に理解する。</p> <p>①学内で学んだ知識や技術を実際の援助現場で確認し、理論と実践を結びつけることができるようにする。</p> <p>②社会福祉専門職としての自己覚知、利用者理解を深め、施設・機関の機能やニーズについて分析することができるようにする。</p> <p>③社会人としてのマナーを守り、責任ある行動ができるようにする。</p> <p>④多職種協働を学び、相談援助の内容や相談援助職の役割と連携について明確に示すことができるようにする。</p> <p>④利用者とのコミュニケーション方法を学び、例証できるようにする。</p> <p>⑤実習機関・施設で働く専門職の、多職種協働のありようを確認できるようにする。</p>						
授業の方法	福祉施設・機関における実習						
学習成果	L01						
	L02	机上で学んだ社会福祉や相談援助に関する知識や技術が実際の援助現場で活かされていることを確認することができる。					
	L03	社会福祉専門職として自己理解と対象理解について具体的にかつ実践的に分析できる。					
	L04						
課題に対する フィードバック	実習記録を作成する。実習記録は各実習において各教員が巡回指導にあたり、指導する。その場でフィードバックをする。						
教科書/ 参考図書	実習指導 I・II・III で使用したテキストを使用する。他 授業中に指示する。						
履修上の留意 点やルール等	実習生としてのマナーやルールを順守し、実習に適した態度で実習に臨むこと。私語、遅刻、早退は厳禁。目的意識・課題意識を明確にして実習に臨みこと。事前・事後学習に費やすべき時間の目安は各回 180 分とする。相談援助実習指導 I の単位未取得者、他フィールド履修不可。社会福祉士資格に関連する科目 3 科目以上の未修得がある場合は実施不可。						
担当教員の実 務経験							

成績評価の方法と基準					
評価の領域	評価基準	学習成果の割合			
		L01	L02	L03	L04
授業参加態度					
レポート/作品					
発表					
小テスト					
試験					
その他	出勤状況、実習態度、実習巡回指導、実習指導者の評価、記録など		50	50	

	により総合的に評価する				
合 計			50	50	

回数		授業計画
1	授業内容	配属された各施設・機関において6日間(48時間以上)の実習を行う。 ・配属先は、原則として実習生の希望や居住地、実習計画を参考に実習指導教員が配属を行う。 ・実習1か月前には実習施設・機関へ事前訪問を行う。 ・実習中は実習指導者の指示に従い、スーパービジョンを受ける。 ・記録を毎日作成し、期限までに実習指導者へ提出する。(最終日には、全記録を実習指導者へ提出する) ・実習終了後は、6日間の学びを「評価とまとめ」として作成し、実習指導者へ提出する。 ・実習中、実習指導教員による巡回指導を1回行う。 【実習予定施設・種別】社会福祉協議会・介護老人福祉施設、デイサービス、障害者支援施設等。
	事前・事後学習	
2	授業内容	
	事前・事後学習	
3	授業内容	
	事前・事後学習	
4	授業内容	
	事前・事後学習	
5	授業内容	
	事前・事後学習	
6	授業内容	
	事前・事後学習	
7	授業内容	
	事前・事後学習	
8	授業内容	
	事前・事後学習	
9	授業内容	
	事前・事後学習	
10	授業内容	
	事前・事後学習	
11	授業内容	
	事前・事後学習	
12	授業内容	
	事前・事後学習	
13	授業内容	
	事前・事後学習	
14	授業内容	
	事前・事後学習	
15	授業内容	
	事前・事後学習	